Annual Report 2011

2011年度年次報告書

特定非営利活動法人
日本イラク医療支援ネットワーク
〒171-0033 東京都豊島区高田3-10-24
第二大島ビル303　☎03-6228-0746











目次

事務局長よりご挨拶　．．．2
JIM-NETのあゆみ　．．．3
組織体制　．．．3
JIM-NET参加団体　．．．4
2011年度事業報告　．．．5〜7
2012年度事業方針　．．．7〜8
会計に関する報告　．．．9〜12
【2011年度貸借対照表】
【2011年度JIM-NET決算書】
【2012年度JIM-NET予算書】
【監査報告書】

監　査　報　告　書

INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT

日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）の 2011 年度決算（2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 1 月 31 日）について、監査の結果、事業は適正に実施され、また収支決算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

We have audited the financial statement of JIM-NET as of March 2012 and acknowledged that revenue, expenditures for the Fiscal Year 2011 and the balance sheet were based on generally accepted accounting principles.

日付: 2012年3月10日

監事：栗原 郁

監　査　報　告　書

INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT

特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）の 2011 年度決算（2012 年 2 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日）について、監査の結果、事業は適正に実施され、また収支決算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

We have audited the financial statement of NPO JIM-NET as of March 2012 and acknowledged that revenue, expenditures for the Fiscal Year 2011 and the balance sheet were based on generally accepted accounting principles.

日付: 2012年3月10日

監事：栗原 郁

2012年度 JIM-NET 予算書

収入の部

項目	2011年度 決算額	2012年度 予算額	備考
会費	¥7,385,000	¥7,000,000	
一般寄付	¥6,313,975	¥5,000,000	総額の10%をOHに計上*1
東日本大震災支援募金	¥30,018,703	¥5,000,000	
チョコ募金	¥74,089,880	¥80,000,000	
構成団体拠出金	¥39,739,862	¥24,813,000	
物品・書籍販売	¥699,808	¥500,000	
絵画展収入	¥262,225	¥250,000	
イベント等収入	¥152,092	¥200,000	
受取利息収入	¥6,935	¥3,000	
収入計	**158,668,480**	**122,766,000**	

*1 OHとは、事務運営費(人件費、交通費、通信費、荷造り運賃など)を指す。

支出の部

項目			2011年度 決算額	2012年度 予算額	備考
海外プロジェクト	アルビル	医薬品支援	¥3,948,786	¥4,800,000	
		機材消耗品	¥3,703,035	¥4,000,000	
		院内学級支援	¥380,680	¥352,000	
		感染症対策	¥3,968,393	¥2,144,000	
		看護師派遣費	¥334,626	¥0	
		管理費	¥5,904,125	¥4,786,000	
	バスラ	医薬品支援	¥9,595,823	¥9,600,000	
		院内学級支援	¥609,095	¥764,000	
		患者支援	¥4,796,732	¥4,320,000	
		感染症対策	¥45,000	¥472,000	
		管理費	¥1,721,936	¥1,137,500	
	バグダッド	医薬品支援	¥17,075,520	¥17,280,000	
		機材消耗品	¥1,305,315	¥0	
		患者支援	¥473,407	¥1,120,000	
		院内学級支援	¥232,775	¥824,000	
		感染症対策	¥90,000	¥0	
		管理費	¥1,276,369	¥1,152,000	
	モスル	医薬品支援	¥0	¥0	
		管理費	¥0	¥0	
	アンマン	患者支援	¥1,191,825	¥1,000,000	
		管理費	¥2,221	¥0	
	難民支援	難民支援	¥773,483	¥1,000,000	シリア難民への支援含む
		管理費	¥0	¥200,000	
	JIM－NET会議		¥1,769,414	¥1,700,000	
	参加団体助成金		¥136,349	¥150,000	
管理費	その他管理費	現地出張費	¥1,537,257	¥1,000,000	
		海外振込手数料	¥122,884	¥150,000	
		為替差損	¥961,320	¥0	
海外プロジェクト計			¥61,956,370	¥57,951,500	
震災	震災被災者支援	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ費	¥14,884,828	¥8,142,000	
		管理費	¥5,636,212	¥3,000,000	
東日本大震災被災地支援計			¥20,521,040	¥11,142,000	
国内	広告宣伝費		¥1,289,793	¥1,500,000	
	チョコ募金経費		¥25,140,756	¥30,498,000	
	物販購入費		¥922,175	¥922,000	
	アドボカシー経費		¥107,621	¥1,000,000	
	国内ネットワーク事業		¥73,630	¥74,000	
国内プロジェクト計			¥27,533,975	¥33,994,000	
管理費	事務所家賃・保険費		¥1,275,200	¥1,406,000	
	事務所光熱費		¥193,511	¥124,000	
	通信費		¥1,314,562	¥900,000	
	備品・消耗品		¥207,031	¥1,000,000	
	人件費		¥8,128,141	¥12,680,000	
	通勤費・交通費・国内出張費		¥725,571	¥1,600,000	
	記録・資料費		¥13,863	¥5,000	
	荷造り運賃費		¥13,620	¥50,000	
	振込手数料		¥101,743	¥100,000	
	管理諸費		¥313,500	¥813,500	
	緊急対応費		¥0	¥1,000,000	
管理費計			¥12,286,742	¥19,678,500	
支出計			**122,298,127**	**122,766,000**	

2011年度 JIM-NET 決算書

収入の部

項目	2011年度予算額	2011年度決算額	(NPO法人JIM-NET決算2012/2～3)*1	備考
会費	¥6,600,000	¥7,385,000	¥519,700	
一般寄付	¥5,000,000	¥6,313,975	¥1,537,591	総額の10%をOHに計上*2
東日本大震災支援募金	¥15,000,000	¥30,018,703	¥3,186,417	
チョコ募金	¥69,070,000	¥74,089,880	¥12,931,202	
構成団体拠出金	¥19,200,000	¥39,739,862	¥12,114,891	
物品・書籍販売	¥500,000	¥699,808	¥329,838	
絵画展収入	¥300,000	¥262,225	¥60,000	
イベント等収入	¥300,000	¥152,092	¥15,705	
受取利息収入	¥3,000	¥6,935	¥2,385	
収入計	**115,973,000**	**158,668,480**	**30,697,729**	

*1 NPO法人JIM-NETの決算数値(2012/2～3)は、2011年度決算額の内数。
*2 OHとは、事務運営費(人件費、交通費、通信費、荷造り運賃など)を指す。

支出の部

項目			2011年度予算額	2011年度決算額	(NPO法人JIM-NET決算2012/2～3)*1	備考
海外プロジェクト	アルビル	医薬品支援	¥4,080,000	¥3,948,786	¥806,800	
		機材消耗品	¥4,250,000	¥3,703,035	¥0	
		院内学級支援	¥408,000	¥380,680	¥38,210	
		感染症対策	¥3,754,000	¥3,968,393	¥199,310	
		看護師派遣費		¥334,626	¥177,964	
		管理費	¥5,680,000	¥5,904,125	¥791,315	
	バスラ	医薬品支援	¥10,200,000	¥9,595,823	¥1,645,764	
		院内学級支援	¥553,000	¥609,095	¥257,711	
		研修	¥502,000	¥0	¥0	
		患者支援	¥4,590,000	¥4,796,732	¥170,938	
		感染症対策		¥45,000	¥45,000	
		管理費	¥1,403,000	¥1,721,936	¥277,667	
	バグダッド	医薬品支援	¥18,360,000	¥17,075,520	¥5,808,960	
		機材消耗品	¥2,125,000	¥1,305,315	¥0	
		患者支援	¥468,000	¥473,407	¥103,474	
		院内学級支援	¥825,000	¥232,775	¥6,831	
		感染症対策		¥90,000	¥90,000	
		管理費	¥944,000	¥1,276,369	¥248,731	
	モスル	医薬品支援	¥0	¥0	¥0	
		管理費	¥68,000	¥0	¥0	
	アンマン	患者支援	¥1,700,000	¥1,191,825	¥1,191,825	
		管理費	¥170,000	¥2,221	¥2,221	
	難民支援	難民支援	¥850,000	¥773,483	¥0	救急車運搬経費
		管理費	¥43,000	¥0	¥0	
	JIM－NET会議		¥1,700,000	¥1,769,414	¥1,769,414	
	参加団体助成金		¥0	¥136,349	¥136,349	
管理費	その他管理費	現地出張費	¥2,000,000	¥1,537,257	¥0	
		海外振込手数料	¥230,000	¥122,884	¥23,500	
		為替差損	¥0	¥961,320	¥785,843	
海外プロジェクト計			¥64,903,000	¥61,956,370	¥14,577,827	
震災	震災被災者支援	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ費	¥9,000,000	¥14,884,828	¥1,774,885	
		管理費	¥6,000,000	¥5,636,212	¥150,286	
東日本大震災被災地支援計			¥15,000,000	¥20,521,040	¥1,925,171	
国内	広告宣伝費		¥1,200,000	¥1,289,793	¥156,249	
	チョコ募金経費		¥22,775,000	¥25,140,756	¥4,345,077	
	物販購入費		¥420,000	¥922,175	¥231,308	
	アドボカシー経費		¥500,000	¥107,621	¥9,911	
	国内ネットワーク事業		¥30,000	¥73,630	¥24,830	
国内プロジェクト計			¥24,925,000	¥27,533,975	¥4,767,375	
管理費	事務所家賃・保険費		¥1,406,000	¥1,275,200	¥210,000	
	事務所光熱費		¥124,000	¥193,511	¥51,042	
	通信費		¥900,000	¥1,314,562	¥325,331	
	備品・消耗品		¥1,000,000	¥207,031	¥36,786	
	人件費		¥8,000,000	¥8,128,141	¥1,258,000	
	通勤費・交通費・国内出張費		¥1,600,000	¥725,571	¥237,640	
	記録・資料費		¥5,000	¥13,863	¥300	
	荷造り運賃費		¥50,000	¥13,620	¥1,490	
	振込手数料		¥100,000	¥101,743	¥17,835	
	管理諸費		¥300,000	¥313,500	¥31,500	
	緊急対応費		¥1,000,000	¥0	¥0	
管理費計			¥14,485,000	¥12,286,742	¥2,169,924	
支出計			**¥119,313,000**	**¥122,298,127**	**¥23,440,297**	

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

(NPO法人)JIM-NET

[税込](単位:円)

全事業所

2012年 3月31日 現在

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	931,870
東京 現金	224,953	預り金	38,820
現地 現金	7,442,869	源泉税預かり金	(38,820)
普通 預金	99,439,014	支援準備金	5,000,000
八十二銀行	(8,190,181)	流動負債 計	5,970,690
三井住友銀行	(18,908,164)	**負債の部合計**	**5,970,690**
郵便局94945	(15,947,456)	**正味財産の部**	
郵便局チョコ	(56,393,213)	【正味財産】	
現金・預金 計	107,106,836	正味 財産	107,857,526
(その他流動資産)		(うち当期正味財産増加額)	7,257,432
未収金	6,521,380	正味財産 計	107,857,526
前払 費用	200,000	**正味財産の部合計**	**107,857,526**
その他流動資産 計	6,721,380		
流動資産合計	113,828,216		
資産の部合計	**113,828,216**	**負債・正味財産の部合計**	**113,828,216**

(任意団体)JIM-NET

[税込](単位:円)

全事業所

2012年 1月31日 現在

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	1,010,891
東京事務所 現金	296,390	預り金	82,487
現地事務所 現金	7,631,418	源泉税預かり金	(82,487)
普通 預金	96,993,984	支援準備金	5,000,000
八十二銀行	(8,189,527)	流動負債 計	6,093,378
三井住友銀行	(24,984,349)	**負債の部合計**	**6,093,378**
郵便局94945	(12,814,805)	**正味財産の部**	
郵便局チョコ	(51,005,303)	【正味財産】	
現金・預金 計	104,921,792	正味 財産	100,600,094
(その他流動資産)		(うち当期正味財産増加額)	29,112,921
未収金	1,532,920	正味財産 計	100,600,094
前払 費用	200,000	**正味財産の部合計**	**100,600,094**
立替金	38,760		
その他流動資産 計	1,771,680		
流動資産合計	106,693,472		
資産の部合計	**106,693,472**	**負債・正味財産の部合計**	**106,693,472**

【国内活動】

1）政策提言・啓発活動

○イラク戦争検証

2013年3月20日はイラク戦争開戦から10周年を迎えます。「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」と協力し、シンポジウムやイベントを行います。年間を通し、現場の情報を今まで以上に発信していきます。

○劣化ウラン

第67回国連総会で、劣化ウラン弾の使用禁止に関して議論されます。私たちは劣化ウラン弾の禁止を訴え、ICBUWらが行うロビー活動、アドボカシ―に協力します。

○難民

シリア騒乱で私たちが活動しているヨルダンやシリアにも難民が出ています。また、未だに解決しないイラク戦争時の難民の問題に関しても広く知ってもらう必要があります。日本で難民申請しているイラク人のサポートも含め、UNHCRやJ-FUN（UNHCRと難民支援を行うNGOの協議会）と協力しながら、写真展などの啓発活動を行います。

○原発関連

福島で起こっていることを世界に伝え、教訓にしてもらう活動に力を入れます。原発を導入しようとしているヨルダンでのシンポジウムや、写真展などを企画します。

○その他

次世代の育成を考慮に入れ、学校への講師派遣や修学旅行生の受け入れを積極的に行っていきます。

2）チョコ募金

日本では今後脱原発が進むと、当面は不足分を石油などの火力発電に頼らざるをえません。石油資源の豊富なイラクでは、石油外交のため日本が支持した戦争で苦しんでいる人達がいます。バグダッドでは、未だに復興が進まず、停電が続いています。もう一歩踏み込み、戦争を生まないエネルギー政策の在り方をみんなで考えようという意味で「グリーン・エネルギー」をテーマにしたチョコパッケージをイラクの子ども達と共に作ります。2012年度は16万個を製造予定。また昨年からAPLA，オルタトレードジャパンと進めてきたパプアニューギニアのカカオ豆でチョコの製品化を目指します。福島でカカオ豆を実験的に育ててみたりカカオ豆からチョコを作ってみたり、そうしたワークショップを行うことでフェアトレードの理解を深めます。

3）福島支援プロジェクト

子どもたちを放射能から守り、明るい未来を築くために、福島に寄り添い発信していきます。特に海外に向けた発信を強化し、平和な世界を作るために力を合わせたいと思います。

①食の安全プロジェクト

正しく測る⇒市民測定所のスタッフのレベルアップのためのワークショップ開催や、一般の利用者にも放射能のことを正しく知ってもらうためのセミナー（放射能リテラシー）などを開催します。（ルーテル教会、JANICと協働）

安全な食べ物⇒農家と一緒に安全な食物を考えます。（「100年未来塾」二本松有機農研と協働）

②紙芝居などを用いて、子どもたちが楽しく正しく放射能のことを学ぶワークショップ、そして一時保養などを取り混ぜた活動に力を入れます。

【組織・管理】

1）組織

認定NPO法人となるための準備を開始します。

2）サポーター関係

より多くの方にサポーターとなっていただけるよう募集チラシを作成する一方、支援者の皆さまと顔を合わせ、活動状況をご報告できるような懇親会の実施を検討します。

3）広報

前年度に続き、HPやメルマガにて活動情報を迅速にご報告できるような体制を整えるとともに、HPにおける英語サイトの拡充や子どもにもわかりやすいような絵入りの資料作成等、JIM-NETの理解が深まるよう、いろいろなツールを活用していきます。

２．東京責任：東京での電力供給のために作られた原発であり、東京は問題解決に責任を負うべきで、東京に本部を置くJIM-NETも団体としての責任がある。
３．国際的な視野を持った活動：もはや、原発事故による放射能汚染は日本だけにとどまらない。海外への情報発信や、関連した核燃料サイクルに関して、核兵器や、劣化ウランといった問題にも改めて警鐘を鳴らしていく。

2011年度は、除染や避難の支援、シンチレーション検出器の提供のほか、アドボカシー活動など、「福島に寄り添って欲しい、忘れないでほしい」という福島の人々の気持ちに留意しながら、いろいろなかたちでの活動に取り組みました。放射能汚染に関しては、イラクと福島共通の問題として、今後も重点的に取り扱っていく方針です。

【組織・管理】

１）組織

2012年1月23日、所轄庁（東京都）より特定非営利活動法人の設立について認証を受け、2月1日に特定非営利活動法人日本イラク医療支援ネットワークとして登記をいたしました。

２）サポーター関係

前年度同様、新規サポーターにはサポーターバッチを送るほか、継続者にはチョコ募金缶と同じデザインのシールを発送するなど、サポーターサービスの充実に努めました。

３）広報

JIM-NETの活動がよりよく理解されるよう、HPや団体資料・会報の拡充を進めました。HPについては、団体概要を紹介する英語ページを増設。イラクや白血病に関する用語説明のページも新規開設に着手しています。会報誌に関しては、2010年度より年次報告の作成を開始しました。

2012年度事業方針

米軍撤退後、イラクの報道が少なくなり、関心が少なくなる一方、治安もさほどよくはならず、行政も不安定な状況で、医薬品や消耗品の不足は続くと思われ、支援の継続が望まれます。医療成績を上げるためには、徹底した感染症対策が必要なため、看護師を巻き込んだ効率のよい研修を検討します。2013年はイラク戦争開戦から10周年になるので、プロジェクトと共に、イラク情報を積極的に発信していきます。またシリア情勢が不安定で、私たちが活動するイラクやヨルダンにも難民が出てきたことで、JIM-NETが今まで支援してきた難民を取り巻く環境も悪化しています。難民支援基金を再開し、これらの難民問題に対応できる体制を作ります。

福島に関しては、JIM-NETは子どもたちに放射能のことを正しく理解してもらうための講座やワークショップ、保養などのプロジェクトを中心に支援を担っていきます。その一方、福島の問題は日本が抱える根本的な問題でもあり、原発政策は、核開発や、劣化ウラン弾の使用とも結びついていることから、世界に向けた情報発信や、政策提言を行っていきます。

【海外活動】

１）ガン白血病支援

①引き続き医薬品消耗品などの不足分を支援します。

②モデル病院支援

●病院状況調査

支援開始から9年目に入り設備等の状況も変化もしていることから、状況調査を行いニーズを見直します。

●バグダッドでは：最先端技術の導入→感染症対策の改善を優先

予想に反して設備が改善されず不衛生であることから、先端技術よりも感染症対策の改善を優先します。また院内学級や患者の交通費支援は継続していきます。

●バスラでは：総合的なケアの出来る病院として定着してきました。今後はその技術をバグダッドやアルビルに広げるよう試みます。また遠方からの患者家族に対しては宿泊施設を提供します。

●アルビルでは：感染症対策に優れた病院に！

医師、看護師を中心としたチームを作り、信州大学での研修を実施。プレイルームは、見た目よりも感染症対策を徹底させることに努めます。

２）難民支援

アルワリード難民キャンプでは2012年4月15日にUNHCRが撤退しましたが、難民が取り残されています。医療支援を再開するとともに、シリア情勢の悪化で、JIM-NETの活動国のヨルダン、イラクにあふれたシリア難民の支援を地元の関係団体に協力するために難民支援基金を立ち上げます。

3）難民支援

シリア国境付近のアルワリード難民キャンプには、イラク戦争後迫害を受けるようになった、イラク国内にいたイラン系クルド難民、イラン難民、パレスチナ難民がいます。JIM-NETは設立当初からJVCやスマイルこどもクリニック、JCFとともに国境付近の難民支援を行ってきましたが、このアルワリードキャンプが閉鎖されるということで、日本からの救急車の供与については、アルビルのマクムールキャンプに変更。震災の影響で輸送船の確保に苦労しましたが、11月に無事に到着し、3月に贈与式が行なわれました。

【国内活動】

1）政策提言・啓発活動

○イラク戦争検証

イラク戦争の検証をもとめる署名は、目標の一万筆を越え四万筆集まり、内閣官房副長官に提出しました。議連も発足し、総会に佐藤事務局長が参加。国会での検証委員会設立の足がかりになるかと期待されましたが、震災、原発問題により、活動は停滞しました。3月20日には、元福島県知事の佐藤栄佐久知事をゲストに迎え「国策を問う」と題したシンポジュームを共催しました。

○劣化ウラン

被曝66年8.6ヒロシマ集会や国際行動デー、脱原発世界会議での共同出展などに参加しました。

○難民

J-FUN難民の日のイベント参加。UNHCR60周年記念にあわせたJIM-NETのメッセージ発表などを実施しました。

○原発関連

脱原発世界会議に賛同し、福島の部屋等の企画に参加。福島の写真が好評で、ドイツや、イタリアでも展示しました。また、ヨルダンで原発誘致に反対しているゲストを迎えた集会「原発？ No, thank you！ヨルダンの国会議員・弁護士は訴える」を共催しました。

○反貧困

反貧困の取り組みとして、石巻国際祭り（動く→動かす主催）にローカルスタッフのイブラヒムが参加し、MDGsの実現を訴えました。

○その他

大都会地下トークと称し311後の我々を考えるトークライブを6回実施。テーマも、福島、原発、難民、フェアトレード、貧困と多岐にわたりました。また、岩手の県立中学校の修学旅行の受け入れや、長野県の上田西高校、赤穂高校、伊奈北高校の3高では、講演と共にチョコの袋づめというボランティアを体験していただきました。

2）チョコ募金

多くのイラク人が日本のことを心配してくれ心温かいメッセージを送ってくれました。「一つの家族」をテーマに、ハウラ（がんの生存者で15歳）が日本を元気にしたいという花の絵を使ったシンプルなチョコ缶のデザインが心を打ち個数は14万個を達成。500円の募金のうち300円をイラク支援とし、50円を福島支援に充てることにしました。またチョコの一部を福島の幼稚園や、避難所にプレゼントしました。

3）国内緊急支援プロジェクト

被災地支援として、宮城県石巻市では震災直後より支援を開始。4月からは地域医療支援と仮設風呂の提供を行ないました。現地の状況変化にともない、3月末日をもって同市における支援は終了いたしました。

・仮設風呂の提供：

①希望の湯 湊小学校避難所での仮設風呂提供→避難所の閉鎖に伴い終了

②不動の湯 永巌寺駐車場での仮設風呂提供→地元の中央正和会へ移管

・地域医療：初期段階においては戸別訪問などを実施。10月以降は在宅介護支援センターなどへ必要に応じて協力することとし、JIM-NETとしては9月末で終了。その後、三反走などの仮設住宅の集会所において、体操や音楽、裁縫、ゲームなど、住民が集まれる場を提供するため「お茶っこくらぶ」を3月末まで企画・実施しました。

4）福島支援プロジェクト

深刻な放射能汚染の被害を受けた福島県では、「福島イニシアティブ」を掲げて7月より本格的な支援を開始しました。

〔福島イニシアティブ〕

1．福島の復興に関しては、福島の人達が決めるべきで、彼らが決めた避難やとどまるという選択を尊重した上での必要な支援を行う。

2011年度事業報告

JIM-NETは2011年3月11日に発生した東日本大震災に関し、3月20日にいちはやく現場に赴き、支援物資の配送の運転要員として、現場にスタッフを派遣。その後、石巻市において、仮設風呂の提供や医療支援および仮設住宅でのコミュニティ支援（お茶っこくらぶ）を実施しました（仮設風呂の支援は2011年11月末まで、医療支援・仮設住宅コミュニティ支援は2012年3月末まで継続）。また7月からは、「福島イニシアティブ」を掲げて、除染や移動保育など、福島において原発事故の影響を被った人々への支援も開始しました。脱原発世界会議や、ドイツ、イタリアなどでも写真の展示を行うなど、世界に向けての問題提起を行うこともできました。福島支援は2012年度も重要課題のひとつとして取り組んでいきます。

イラク支援に関しましては、国内の被災地支援により年度前半は手薄になった時期もありましたが、従前より継続している支援内容は定着しております。バグダッドとアルビルでは院内学級が始まるなど、今までバスラでしかやっていなかった活動が他の地域に広がりました。しかしながら、重点的に力を入れようとした感染症対策には引き続き課題が残っています。急性リンパ性白血病（ALL）の一ヶ月以内の死亡率を比較すると、支援当初の2007年には10%を超えていた死亡率を2009年には4.9%まで下げる事ができましたが、2010年には5.8%、さらに2011年には7.7%と高くなってしまい治療成績が悪化していることから、今後は一層、感染症対策に力を入れていきます。

2011年度、東日本大震災に際しては、イラクからの応援メッセージや駐日イラク大使館からのご協力をいただき、イラク人からの募金なども集まって、東北支援を支えてくれました。チョコ募金もこれまで以上の成果があり、イラクと福島を違和感なくつなげる事ができたと考えております。

最後に、組織としましては、これまでJIM-NETは任意団体として活動してまいりましたが、2012年2月1日をもって特定非営利活動法人（NPO法人）日本イラク医療支援ネットワークとなりました。

【海外活動】

1）ガン・白血病支援

①必要な医薬品や消耗品などの供与

JIM-NETは、2011年度も引き続きバグダッド、バスラ、アルビル、モスルの4箇所5病院に、不足する医薬品の供与、成分輸血装置の消耗品供与を実施しました。

②モデル病院支援計画

それぞれの病院の特徴を生かした支援で、モデル病院を作り上げ、その後はイラクの病院同士で技術移転が行えるよう支援をしています。

●バグダッドは、最先端技術病院を目指します。

⇒患者数が多すぎること、設備が老朽化していることなどから、最先端技術の導入は難しく、一方バスラで行っていた院内学級や、患者の交通費支援などを試行しました。

●バスラは、医療だけでなく、心、教育、経済などの総合的なサポートを行える病院を目指します。

⇒バスラでの経験をバグダッドやアルビルに活かすことができました。

●アルビルは、感染症対策を徹底した病院を目指します。

⇒感染症対策で現地に派遣予定だった川添看護師が石巻担当となったため、看護師を現地に常駐させることはできませんでしたが、11月に赤尾看護師（カンボジア アンコール小児病院所属）を派遣し、今後の方向性のアセスメントを行ないました。ナナカリー病院との信頼関係は強化されてきておりますが、2012年度以降は、感染症対策のモデル病院とできるかどうかという議論から再出発することとなります。

③海外での治療費負担

ファル―ジャ出身の3歳の男の子、ゼイド君のヨルダンのキングフセイン癌センターでの骨髄移植などの治療費の一部10,000JD（約120万円）を負担しました。またイランでの放射線治療にバスラの患者8名分の治療費を負担しました。

2）JIM-NET会議

毎年2月に日本の医師とイラクの医師が集まり会議を開催しています。今年度は2月21-22日の2日間にわたってイラクのアルビルで開催されました。日本からは、鎌田實医師、井下俊医師、佐藤真紀、阪口佳代（以上JIM-NET）、坂下医師、リカー医師（信州大学）、赤尾和美看護師（アンコール小児病院）、神谷さだこ（JCF）が参加。イラクからは、バグダッド、バスラ、モスル、ドホーク、アルビルの6病院（バグダッドは2病院）から合計16名の医師が参加しローカルスタッフを入れると25名を超える参加者となりました。現在、信州大学に留学中のリカー医師は、イラクの患者の血液サンプルの遺伝子解析の研究報告を行ないました。今後、イラクでも高度な医療技術が取り入れられるよう期待が高まっています。

JIM-NET参加団体（50音順）

【アラブの子どもとなかよくする会】(http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com/blog/)
1991年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993年にアラブの子どもとなかよくする会を設立しました。がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り(アファーク・プロジェクト)を通じて患者家族の生活支援を行っています。また現地や日本での子どもの交流も続けています。

【カタログハウス基金】(http://www.cataloghouse.co.jp/)
カタログハウスが発行するカタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮しの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。チェルノブイリの子どもたちへの支援は2008年まで18年間続けました。現在はドイツ平和村とイラクの子どもたちに薬や医療機器を送るための救援カンパを呼びかけ、2011年4月からは福島の子ども支援に取り組んでいます。

【子どもの平和と生存のための童話館基金】(http://www.douwakan.co.jp/group/fund)
童話館グループは、長崎市にある絵本・こどもの本を専門にあつかう会社です。2001年、童話館の創業20周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。「子どもの平和と生存のための童話館基金」はイラク南部のバスラ子ども病院へ毎月医薬品の支援をしています。

【「サダコ」・虹基金】(「サダコ」・虹基金ブログ http://sadakoniji.sblo.jp/)
「サダコ」・虹基金は、原爆の子の像のモデル佐々木禎子ちゃんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、サダコちゃんの絵本『想い出のサダコ』出版をきっかけに2006年3月に設立した基金です。この基金は、現代の「サダコ」ともいえるイラクなどで白血病や小児ガンで苦しむ子どもたちを支援することを目的にしています。

【スマイルこどもクリニック】(http://www.geocities.jp/maroji60/1.htm)
小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001年開院された24時間診療の小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の負担など様々な支援を行ってきました。2011年度はマクムール難民キャンプに救急車を寄付しました。現在、JIM-NETへスタッフを出向させる他、毎月事務局の運営費を支援しています。

【日本国際ボランティアセンター(JVC)】(http://www.ngo-jvc.net/)
JVCは、1980年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた時、「何かできないか」とタイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在、アジア、アフリカ、中東、そして日本の震災被災地で活動している国際協力NGOです。現場の声を政府や社会に届ける政策提言・アドボカシーの活動にも力を入れています。

【日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)】(http://jcf.ne.jp/)
JCFは、1991年1月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立された認定NPO法人です。信州大学医学部の協力を得て、小児甲状腺がんや小児白血病の診断と治療を、現地医師をサポートする形で行ってきました。2004年からはイラクの小児白血病・小児がんの子ども達への支援を行なっています。また2011年3月11日からは、原発震災の福島の子どもたちを守ろうと被ばく防護対策事業を行っています。

【劣化ウラン廃絶キャンペーン(CADU-JP)】(http://www.cadu-jp.org/contents.html)
2003年10月、ドイツハンブルグで開催されたウラニウム兵器禁止国際会議の出席者の呼びかけに端を発し、劣化ウラン問題を憂慮する全ての人に開かれたキャンペーンとして「劣化ウラン廃絶キャンペーン」はスタートしました。この地球上で劣化ウランが二度と使用されることがないようにすること、劣化ウランの被害者を援助することを目指します。

JIM-NETのあゆみ

1990年代半ば、イラクの子ども達の間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991年の湾岸戦争時に使用された劣化ウラン弾の放射能の影響だと思われます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、多くの子ども達が、助かるはずの命を失っていきました。2003年のイラク戦争では、米英は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され、疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子ども達にとっては危機的状況でした。2004年6月、来日したバスラ産科小児科病院のジャナン医師と日本の支援者たちの間で、子ども達の窮状を救うための話し合いがもたれ、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちによりJIM-NETが立ち上げられました。以降、任意団体として7年あまり活動した後、2012年2月1日、特定非営利活動法人（NPO法人）となりました。

2011年3月11日に生じた東日本大震災においては、宮城県石巻市を中心に医療支援や仮設風呂の提供を行なうとともに、地震と津波で福島第一原子力発電所の事故が起きた福島県では、放射能の被害を最小限に留めるべく除染や疎開の支援をしました。

JIM-NETは、イラクでは、将来イラク国内で先進国並みの治療が可能となるよう支援を続けていく一方、福島での活動も継続し、国内外を問わず放射能汚染から人々を保護するために必要な活動を行なっていきます。

組織体制（2012年3月末現在）

【役員】

現役員は以下の通り。

代表	鎌田實
副代表兼事務局長	佐藤真紀
理事	池住義憲
理事	井下俊
理事	鎌仲ひとみ
理事	神尾京子
理事	谷山博史
監事	栗原郁

【スタッフ】

東京事務所スタッフ　2名（他パートタイムスタッフ3名、JIM-NET参加団体からの出向スタッフ1名）
アルビル事務所スタッフ　1名　イラク人現地スタッフ　2名

【サポーター】

ラナサポーター*　405名
一般サポーター**　1,079名

*ラナサポーター：年会費1万円は、うち3千円が会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスとJIM-NETの運営に充てられるほか、7千円を子どもたちの医療支援費に充当します。

**一般サポーター：年会費3千円は、会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスとJIM-NETの運営に充当されます。

事務局長よりご挨拶



昨年、一年間を、ようやく冷静に振り返ることが出来るようになりました。
昨年3月、宮城県の被災地に足を踏み入れた時、被害の大きさに、爆弾を落とされた戦地にいるような気がしました。自分達は一体世の中の役に立っているんだろうか？泣きたくなるような気持でした。一方福島原発はメルトダウン。「もう駄目だ」

泣きたくなる思いで、福島の子どもたちを放射能から守ろうとJIM-NETの新たなチャレンジが始まりました。

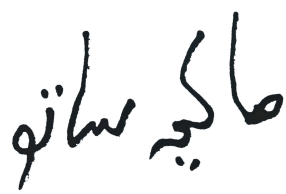
そして、一番頭が痛いのが、資金の調達。日本のこともやりながら、イラクをどうするのか。なんとか、イラク支援は現状維持で行こうと方針をたてました。

そして、おかげさまで、JIM-NETのチョコ募金も大成功に終わり、イラク支援も現状維持することができ、なんとかこの一年を乗り越えることができました。
本当に皆様のおかげです。

先日、バグダッドに行ってまいりました。かつて賑わっていたチグリス川沿いは、廃墟になっており、ゴーストタウンに。いまだに電気は不足して、この暑さで、バグダッドで暮らすのは正直かなり厳しいと思いました。

今、日本国内では、脱原発や反原発が主流になりつつあります。その一方で日本のエネルギー政策は、中東の石油に依存せざるを得ないでしょう。日本が米国のイラク攻撃を強く支持したことの理由の一つとして、石油資源の確保がありました。その結果、ぼろぼろにされてしまったイラク。そして、これからもぼろぼろになって行くのでしょうか？福島後も、日本は、安全性が検証されないまま、隣国ヨルダンなどに原発を売ろうとしています。ヨルダンも「私たちは経験がないから、日本の技術に頼りたい」と言っていますが、原発立地予定地の住民達は反対運動を強めています。日本だけが安全で平和になっていく裏側で、犠牲者が出ないように注意を払わなくてはいけません。そして、シリアの民主化運動の弾圧で多くの市民の犠牲者が出ています。難民はヨルダンやイラクにもあふれ出しました。隣人が救いの手を差し伸べています。着の身着のままで、歩いて国境を越えて逃げてきた人たちは、津波で避難した人たちとどうしても重なります。

昨年、一年間で、私たちはいろんなことを学びました。これからもイラクや福島で学んだことを活かし、さらに皆さんと一緒に考えていきたい。
世界に生きる自分達の責任と、世界のつながりの
なかで支えられ生きていける幸せを感じつつ、
少しでも出来ることをやっていきたいと思います。



特定非営利活動法人
日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）
事務局長 佐藤真紀